

て、建改たてかへないと倒れるばかりになってしまいました。

ある日のこと、正直者のお百姓さんはいつものとおり農作業に行く途中で、不意に「おやつ」と思つて立ちどまりました。

目の前に、里さとには見なれない鼻筋はなばねの通つた、背の高い、いたつて品の良い人がにっこりと微笑えみわらを含んで立っているではありませんか、正直者は丁寧にあいさつして野良に急ぎましたが、その後も同じところで二度、三度と会ううちにだんだんと気易く話しあう仲ななになりました。

ある日のこと品の良い人は一丁いっちょうの斧おのを正直者に差し出して云いました。「この斧をもつてあなたの家を改築かいくちしなさいよ、すぐに出来るよ。」と。

正直者は喜んですぐに斧を持って木を切り始めました。

ところがどうでしょう、切れ味の良いったらありません。

たちまちのうちに新築の家が出来あがりました。よろこんだ正直者は新築わたまわし祝いわいに品の良い恩人を招くことにしました。

「ありがとう、必ず行くよ。でもなあ、女が居つては困こまるよ。」「わかりました、女には用事を云いつけてよそにやっておきます。」と正直者は約束しました。

やがて新築祝の日、品の良い貴人は約束どおり正直者の家に来ました。